

# Tachyon

[タキオン]



なかにし礼氏によって作詩された公立小松大学校歌のタイトルは「光より速きわれら」。ときに光速をも超える思念やインスピレーションが本学学生・職員の spirit から発せられるよう願ひ、本誌のタイトルとして選んだのが「タキオン」(Tachyon) である。Tachyon は、未だ確認されていない粒子であるが、光より速い速度をもつとされ、ギリシャ語の「 $\tau a \chi \upsilon \sigma$  (速い)」を語源とする。

学長 山本 博

(図出典：Institut for teoretisk Fysik)

We Enjoy  
Campus Life

美術工芸サークル

絵画、陶芸、イラスト etc.  
それぞれ自由に作品を作り、  
青松祭で展示発表しています。



01 末広キャンパスがオープン

03 大学TOPICS

05 産学合同シリコンバレー研修

06 教員紹介 川端 信義 生産システム科学科教授

07 第2回青松祭

vol. 4

2020.02

**公立小松大学  
末広キャンパス**  
〒923-0961  
小松市向本折町へ14番地1  
☎ 0761-41-6800  
FAX 0761-48-3232

terrace



**カフェテラス [B棟・2階]**  
食堂に隣接。末広緑地の木々や夕日を眺めながら、四季の移ろいを感じることができる。

**健幸Kitchenすえひろ**  
[B棟・2階]

テーブル席のほか、畳敷きの小上がり席も人気。ランチ提供／11時30分～13時30分  
土日祝日・夏期・冬期・春期の授業休業期間は休業  
メニュー／ランチセット390円、カレーライス330円、麺類310円。支払いはWAON対応可。



**売店 [B棟・2階]**

軽食や飲料のほか、文房具や日用品、書籍なども取りそろえる。営業時間／10時～15時  
休業日は食堂に準ずる

**モニュメント [A棟前]**

本学のイメージマークをデザインしたモニュメント。

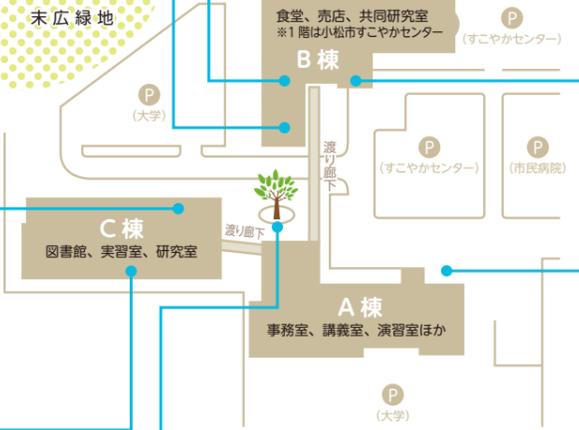


library



**末広図書館 [C棟・1階]**

開館時間／9時～17時（学生は20時まで）  
土・日・祝日休館  
※開館日時や蔵書情報などは、附属図書館ホームページで確認できます



café

monument

**実習室 [C棟・1階]**

C棟1階南側には、「生理学実習室」、「臨床工学実習室」、「工学実習室」が並ぶ。



**オリーブ（シンボルツリー）と憩いのサークルベンチ**

**トイレ [全9箇所]**

A棟の2階及び食堂内の女性用トイレには、パウダールームも併設。



上 キャンパスのシンボル、渡り廊下。A棟とB棟をつなぐ。  
下右 右端に見えるのが新築のC棟。  
下中央 C棟2階研究室に続く階段踊り場。  
下左 竣工式テープカットには、保健医療学部2年生、こまつ看護学校3年生も参加。

**教育研究を後押しする  
充実の環境整備**

令和元年9月26日（木）、保健医療学部メインキャンパスとなる末広キャンパスが竣工し、10月から本格的な専門教育がスタートしました。

末広キャンパスは、既存のこまつ看護学校（A棟）及び小松市すこやかセンター（B棟）2階を改修し、新たに実習室や研究室を備えるC棟を増築し、それぞれを空中回廊（渡り廊下）でつなぐ構造となっています。延床面積は、約5500㎡。広域医療の拠点である小松市民病院に隣接し、保健医療学部の学生・教員が、医療現場の間近で学び、研究に専念できる好立地です。周辺には、ウォーキングコースとしても人気の末広緑地のほか、陸上競技場やテニスコート、プールなどを備える小松運動公園があり、授業の合間や放課後の時間に気軽にリフレッシュできる環境も充実しています。

B棟の2階には、食堂「健幸すえひろ」と売店を設置。食堂は全147席の広さがあり、明るく開放的な雰囲気魅力です。管理栄養士監修の日替わりランチやサラダ、麺、カレーなど、栄養バランスと食育を意識したメニューを提供しています。

C棟1階の「末広図書館」は、本学3つ目の附属図書館です。蔵書能力は約2万冊で、医学系図書や学術雑誌、視聴覚資料などを引き続き充実させていきます。

9月26日に行われた竣工式には、石田寛人理事長、山本博学長のほか、和田慎司小松市長や出戸清克小松市議会議員、公立小松大学を支える会の方々が出席し、新キャンパスの竣工を祝いました。今後も、未来の医療を担う人材の育成に向け、地域と連携したキャンパス運営を進めていきます。

おめでとう！  
輝く小松大生

学長表彰



保健医療学部看護学科1年野本千紬さんが「第64回小松市弓道場開設記念北陸三県弓道大会」女子個人の部で優勝された栄誉を称え、11月20日(水)、学長表彰を授与しました。

観光大使  
こまつ姫御前に選出!



国際文化交流学科2年松浦野乃佳さんが、「2019こまつ姫御前」に選ばれました。観光大使として、各種イベントや撮影会などで、小松の魅力を県内外にPRします。

江蘇杯中国語スピーチコンテスト  
国際文化交流学部  
1年生の3人が一等賞を受賞!



- ・小室 春佳さん(写真中央)
- ・上内 思奈さん(写真右)
- ・清水 優香さん(写真左)

12月7日(土)、愛知大学で江蘇杯中国語スピーチコンテスト(初級班)の決勝が行われ、昨年引き続き、本学の1年生3人が一等賞を受賞しました。うち小室さんは、最優秀賞となる中華人民共和国駐名古屋総領事賞も受賞しました。

★ JR小松駅テロ災害対応訓練に  
看護学科2年生が参加

10/29  
(火)

10月29日(火)、JR小松駅で、JR西日本や小松警察署、石川県警察機動隊、小松市消防本部などによる大規模な「テロ災害対応訓練」が実施され、看護学科の2年生が参加しました。学生たちは、爆発で傷を負った想定された傷病者役と救助者役に分かれて応急処置の訓練を行い、救急医療の現場の空気を体験しました。



★ 地域連携に向けた大学のシーズの発信!  
シーズニーズマッチングシンポジウム

11/8  
12/14  
(木)

本学では、大学の持つ研究シーズ(研究の種)を広く地域に公開し、地域のニーズとのマッチングや地域の課題解決に向けた協働を推進するシンポジウムを開催しています。

生産システム科学科は、11月8日(金)、粟津キャンパスに北陸3県のものづくり企業などを招き、池田慎治准教授と朴亨原助教がそれぞれ研究発表を行いました。また、ものづくり企業4社から、技術力や製品の紹介もあり、聴講した2年生の学生らは、北陸の企業の技術力の高さなどについて理解を深めました。

国際文化交流学科では、12月14日(土)、宮崎国際大学の安富淳准教授を招き、「2015年欧州移民危機後の世界：移民と難民の現在」と題したシンポジウムを開催しました。講演後は、日本国内そして地域の外国人住民との今後の関わりなどについて、意見交換を行いました。



★ 世界糖尿病デー  
ブルーライトアップ

11/14  
(木)

糖尿病の予防、治療、療養を喚起する「世界糖尿病デー」の取り組みとして、中央キャンパスでブルーライトアップイベントを行いました。(共催：小松市医師会糖尿病連携推進協議会)

点灯式に先立ち、小学生を対象に、山本博学長による特別講義と、看護学科の教員と学生がクイズを出題するスタンプラリーも実施し、子供たちに健康や食生活のバランスの大切さを伝えました。その後点灯式で、建物が世界糖尿病デーのシンボルカラーであるブルーにライトアップされました(点灯期間は1週間)。



★ 世界につながる、広がる  
国際交流協定締結

10/24  
11/6  
(木)

10月24日(木)、トゥンクアブドゥルラーマン大学(マレーシア)と、11月6日(水)には、オースティン・ピー州立大学(アメリカ合衆国)と大学間交流協定及び学生交流に関する覚書を締結しました。



オースティン・ピー州立大学での調印式

トゥンクアブドゥルラーマン大学は、2002年に設置された私立大学で、9学部からなる総合大学です。また、オースティン・ピー州立大学は、テネシー州にあり、リベラル・アーツをはじめ、看護学、芸術学、物理学、政治学、歴史学など16の学部・カレッジをもつ総合大学です。いずれの大学とも、学生の短期交換留学(異文化体験実習)、学術交流などを進めていく予定です。

★ 市民公開フォーラム  
「宇宙とツーリズム」

10/26  
(土)



10月26日(土)、学長特別補佐の山崎直子さん(宇宙飛行士)、客員教授の寺門和夫さん(科学ジャーナリスト)をお招きし、サイエンスヒルズ3Dスタジオで市民公開フォーラムを開催し、120人が参加しました(共催：公立小松大学を支える会)。

山崎さんは、「宙(そら) ツーリズム」と題し、ホテル計画や、女性宇宙飛行士を月面へ送る「アルテミス計画」などの現在の宇宙開発や、宇宙から見た地球の様子について語りました。

国際文化交流学部の中子富貴子准教授は、宇宙旅行は、今や一般の人たちにとっても非現実的なのではなく、人類に残された「果て」は宇宙だけと考えられると解説しました。

また、国際文化交流学部の杓谷茂樹教授は、マヤ文明の神話から宇宙を考察し、宇宙の世界が科学的に解明されていく一方、神話や非科学的な宇宙観・世界観も変わらずにあるのではないかと語りました。

モデレーターの寺門和夫さんからは、宇宙を観光学、文化人類学の面からも考える非常にユニークで有意義なフォーラムとなった、との総括がありました。

公立小松  
TOPICS 大学

2019年7月～2020年1月

★ 外務省「日メコン交流年2019」事業に認定  
アンコール世界遺産  
インターンシップ

8/19  
~30  
(月)



8月19日(月)から30日(金)、交流協定を締結しているカンボジア国立アンコール遺跡整備団で、昨年に引き続き、インターンシップを実施しました(金沢大学環日本海域環境研究センターとの共同開催)。

学内選考の結果、国際文化交流学科1年の宮島柚果さんと池田絢香さん、臨床工学科1年の鳥生真衣さんの3人を派遣しました。

学生たちは金沢大学の参加学生とチームになり、アンコール世界遺産公園の水環境の維持管理、地域社会支援、観光開発・誘致など業務に取り組み、アンコールの文化や社会、国際協力のあり方などを学びました。

また、10月31日(木)には、学内で成果報告会を開催し、それぞれが現地での経験や、インターンシップ業務を通して得た学びなどについて発表しました。



★ 保護者会総会開催

10/19  
(土)

10月19日(土)、こまつ芸術劇場うらら大ホールで保護者会を開催し、役員追加や保護者会費の設定及びそれに伴う規約の変更について、承認されました。

また、総会終了後には、粟津キャンパスと末広キャンパスの見学会を行いました。



# 産学合同 シリコンバレー研修

2019年9月1日(日)～6日(金)

米国法人 B-Bridge International, Inc. (CEO: 梶本博之 本学客員教授) の協力のもと、2019年3月にアメリカ カリフォルニア州 シリコンバレーに開設した本学オフィスを活用した取り組みの第1弾として、産学合同研修を実施しました。

## シリコンバレーから 共に地域の未来を考える

シリコンバレーは、グーグルやアップルなど世界的IT企業の本社やスタンフォード大学などがあり、若手起業家やベンチャーキャピタルが数多く集まる世界の最先端企業密集地として知られる地域です。世界中から優秀なエンジニアや起業家、そして技術や情報、資金が集まり、ベンチャー企業や新ビジネスを次々と生み出す土壌は「エコシステム」と言われています。

研修の参加者は、学生8人、社会人4人(コマツ、小松ウオル工業、丸西組、ライオンパワール)。現地企業の視察や解説講義、ワークショップなどの実践的なプログラムにより、シリコンバレーならではの学びが展開されました(プログラム内容は左下参照)。特に、地域の社会人からも参加を募り、学生と同じ課題に取り組み、日ごろ得られない交流が生まれたことは、本研修の大きな特徴の一つです。課題研究プロジェクトでは、社会人1人と学生2人がチームを組み、社会人が「旅行者が安心便利なアプリの開発」、「社内の情報共有を円滑にする方法」などのテーマを学生に提示。



短い研修期間の中で、グループ内のディスカッション、町中やスタンフォード大学での聞き取りなどを行い、それぞれに課題解決のビジョンをまとめ、最終日にプレゼンテーションまで行いました。目標に向かって同じ時間と学びを共有することで、学生、社会人双方が刺激しあい、大学と地域との新たなネットワークを構築した7日間となりました。



- ### 研修プログラム
- 講義 「シリコンバレーのエコシステムとは」、「日米大学・日米企業の違いと考え方」、「Design Thinking and 0→1」など
  - 企業見学・視察 b8ta、Apple (ビジターセンター)、スタンフォード大学、Pegasus Tech Ventures ほか
  - 課題研究 ディスカッション、ヒアリング調査、まとめ、発表 など

※参加者の感想などをまとめた報告書は、本学ホームページから閲覧できます。

# 教員紹介

KOMATSU UNIVERSITY



かわばた のぶよし 教授  
(生産システム科学科)  
*Nobuyoshi Kawabata*

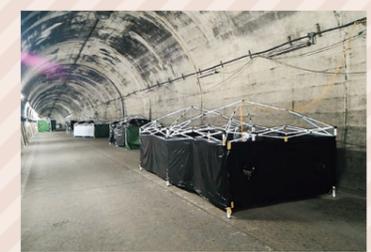
## 煙の挙動から 避難モデルの構築へ

日本全国にあるトンネルの数は、平成30年4月時点で10506箇所(国土交通省道路統計年報2019)。ヨーロッパ全体のトンネルの数と同じぐらいと言われるほど、日本はトンネルの多い国です。そして、トンネルという閉空間では、ひとたび火災が発生すると想像以上に大きな被害につながる可能性があります。私は元々、流体軸受の研究をしていましたが、現在は、煙の挙動、特にトンネル火災時に煙をどう

コントロールするか、どうしたら安全に避難できるかという研究に取り組んでいます。

トンネル火災で最も怖いのは、逃げ遅れです。煙に巻かれて身動きできないでいると、その内に有毒ガス(主に一酸化炭素)が発生し、死に至る可能性もあります。私のような研究者を含め、国や民間などが避難環境整備や安全対策を進めています。最も大切なのは、火災に遭遇した時に判断を迷わないことです。日本のトンネルの多くは、トンネルの真上に照明が設置されていま

すが、煙が発生すると、照明は覆われて真っ暗になり、通常とは全く異なる状況になります。誰かが誘導してくれるのを待っているのは助かりません。逃げる判断をするのは自分自身であり、どこへ逃げたら良いのかを知っておくことが大事です。昨年12月に発生した首都高速道路でのトンネル火災事故で、燃えている車の横を後続車が追い越して走行していく映像を確認しましたが、大変危険です。今いる場所が大丈夫でも、その先は煙が充満しているかもしれません。



実験の様子。200m区間を閉鎖し、模擬煙を充満させて被験者による避難速度の計測を行う。安全を考慮し、車両はテントで模擬する。

実験では、実際にトンネル内で模擬火災や模擬煙を起してデータ集積や解析します。被験者を集め、安全に避難できるかといった評価や、避難にかかる時間の計測も行い、煙シミュレータとあわせて、避難シミュレータの開発も進めています。トンネル火災対策は、日本全体でさらにレベルアップしていかねばならない課題です。安全評

価について言えば、ヨーロッパと日本とを比較すると、さまざまな違いがありますが、どちらが優れているということではなく、これからは、日本の安全評価にヨーロッパの考え方も取り入れていく必要があると考えます。道路、そしてトンネルは重要な社会基盤ですので、今後その火災防災力の向上に貢献していきたいです。

## 学生へのエール

具体的でも漠然としたものでもいい、何か目標を持って学生生活を送ることが成長につながる

## 留学生紹介

a student studying abroad

海外の協定校から受け入れている留学生5人を紹介します。  
※留学期間は、王さんは2018年4月～1年、王さん以外は2019年10月～1年。



ワン エンミン 王恩珉さん  
建国科技大学(台湾)

九谷焼のイベントでガイドボランティアをしたことが一番の思い出です。



リュウ シゼン 劉巴瑄さん  
建国科技大学(台湾)

日本とはかく食べ物がおいしい! 寮では自分で料理もしています。



ロ シンク 路晨焯さん  
常州大学(中国)

留学期間中に、北海道や奈良、京都など、いろいろ旅行してみたいです。



ソン シツツ 孫孜越さん  
東南大学(中国)

ソフトボールサークルに入りました。バスケやバドミントンもやりたい。



コウ キンク 高欣雨さん  
常州大学(中国)

具体的でも漠然としたものでもいい、何か目標を持って学生生活を送ることが成長につながる

## 私のイチオシ

一番落ち着く場所はトンネルです(笑)。特に、福井市と鯖江市の境にある旧戸口トンネルは、実験で年2か月ぐらいお世話になっています。心盤スポットなどどこ言われていますが、何も感じたことはありません。※旧戸口トンネルは、現在は閉鎖されており、許可なく立ち入ることはできません。





### りゅうちえるさん トークショー

19日(土)は、こまつ芸術劇場うらら大ホールにりゅうちえるさんが登場。これまでの自身の経験を基に、挑戦や愛の大切さを語りました。

第2回

# 青松祭

2019年10月19日(土)・20日(日)  
中央キャンパス、JR小松駅高架下ほか

新1年生を迎え、ますますパワーアップした第2回青松祭。「Re: youth」をテーマに、昨年度培った学生の団結力や地域の方々との絆をさらに深め、全員が笑顔で楽しんだ2日間になりました。



### 展示発表・ 学科紹介



左上 美術工芸サークルの展示発表には、絵画だけでなく、九谷焼作品も！  
右 模型サークルの作品にくぎ付けの子供たち。

### 模擬店



オリジナルマフィン、豚汁、おしろこ、たこ焼き、唐揚げ…etc  
模擬店は、昨年よりさらにバラエティー豊かになりました。



### ステージ



特設ステージでは、ストリートダンスサークルや軽音サークル、吹奏楽サークルが日ごろの練習の成果を披露。カラオケ大会やブースPRでも盛り上がりを見せました。

### 緑日・お化け屋敷



実行委員会による手作りの「緑日」は、親子連れに大人気。同じく「お化け屋敷」は、恐怖で絶叫する人続出。